

# バングラデシュ防火事情調査

平成 22 年 2 月 7 日～14 日

東京理科大学

グローバル COE プロジェクト調査チーム

## 1 目的

- ・ GCOE の活動の一環として、バングラデシュの建築防火、都市防火の状況についてその実態を調査するとともに、今後、同国が GCOE の調査・研究活動の対象となりうるか、また、関係政府機関や大学との連携の可能性とそのあり方等について調査・検討する。

## 2 メンバー

小林恭一 GCOE 教授 チームリーダー  
山内幸雄 GCOE 准教授  
西田幸夫 GCOE プロジェクト研究員  
バルア・サンジブ GCOE 研究員  
富松太基 日本設計 GCOE 客員教授

## 3 日程

2 月 7 日 (日) 成田出発 夜ダッカ着

8 日 (月)

- ・ 旧市街密集市街地 (シャカリポティ) 防火状況調査
- ・ シャカリポティ消防署訪問  
消防職員及び消防団員と意見交換
- ・ プラスチック成型品加工工場防火状況調査
- ・ 縫製工場 (シャミン) 防火状況調査
- ・ 建設中の病院 (アサニアミッション癌総合病院) の内部調査

9 日 (火)

- ・ 工業省訪問 Dilip Barua 工業大臣と面会
- ・ 消防庁訪問 Abu Nayeem Md.hahindulla 長官と会談
- ・ 消防庁幹部に対し、GCOE の紹介、今回の調査の目的等の説明及びディスカッション
- ・ 8 階建てビル内にある縫製工場 (SE PAL GARMENT 衣料産業) の防火状況調査
- ・ 大規模木造 3 階建て衣料品マーケット (BANGA BAZAR) 防火状況調査
- ・ 南アジア大会閉会式参列

10日(水)

- ・ JICA 訪問 戸田隆夫所長と面談
- ・ 建設中の高層ビル（Grameenphone テレコムセンター）の防火状況調査
- ・ 日本大使館訪問 日田春光公使参事官と面談
- ・ BUET（バン格拉デシュ工業技術大学）で、建築防火についてディスカッション

出席者：Professor A M M Safiullah 副学長、Abu Nayeem 消防長官を初め、政府関係者、学者等 30 人あまり

11日(木)

- ・ スラム（Pallabi 地区）における消防団の消火訓練視察
- ・ 消防訓練施設及び訓練内容視察
- ・ チッタゴンへ移動

12日(金)

- ・ イスラムの休日・・・コックスバザール見学
- ・ チッタゴン市の消防署（シャッカニヤ）訪問

13日(土)

- ・ 中層ビル内にある縫製工場（Banalta Group）の防火状況調査
- ・ チッタゴン市役所訪問  
A B M Mohiuddin Chowdhung 市長ほか市幹部と、建築防火についてディスカッション
- ・ 雑貨マーケット（フォットタルマーケット）の防火状況調査
- ・ 天然ガス供給スタンドと大学校舎が合築している施設を視察
- ・ 夕方チッタゴン出発 ダッカ、シンガポール経由で 14 日夕方帰国

#### 4 調査の結果（まとめ）

- ・ バングラデシュは、火災のほか、台風、洪水、地震など、様々な災害への対応を迫られている
- ・ 1 億 5 千万人の人口と日本の倍近い人口密度の圧力により、東アジアや東南アジア諸国より経済発展のスタートや発展のスピードが遅れている
- ・ ダッカやチッタゴン市内には、スラムや密集市街地が残り、ビル内に設けられた労働集約型縫製工場や大規模バザールの存在など、火災危険の高い地区や建築物が多数残されている
- ・ 一方で、ダッカの一部では、他のアジア諸国と同様に、高層ビルの大量建設時代が始まっている
- ・ これらに、乏しい国家予算でどう対応し、どうやって安全な国造りを進めていくか、というのが、バングラデシュ国家の課題である

- 調査チームは、Abu Nayeem 消防長官の要請に応え、国際火災科学研究科に留学するマムンさんと、若手研究者として3ヶ月ほど滞在するブルブルさんが、バングラデシュの災害対策の課題と日本の援助の可能性についてまとめる報告書の作成に協力することを約束した
- GCOE としては、そのうち火災対策関係の研究と教育に関して協力していくこととし、その他のジャンルについては、(GCOE としてでなく) 個人的に可能な協力を行っていくこととしたらどうか、と考える